

世界の留学事情と日本語学校教育

大会委員長 黒崎 誠（ラボ日本語教育研修所）

1. パネルセッションの趣旨

国内の日本語教育は、リーマンショックや東日本大震災以降、大きな変化のときを迎えている。この変化の本質を捉えるため、以下の3つの視点から現状の把握と分析を試みる。

- (1) 世界の語学留学事情
- (2) 人材育成
- (3) 日本の留学生受け入れ政策

上記の3点について現状を報告し、さらに専門家のお話を聞くことで、内容理解を深めようとするものである。また、日本語学校関係者との意見交換を通して、日本語学校教育の今後の進むべき方向性、もしくはそのヒントを明らかにする。

上記の3つの視点を選んだのは以下の理由からである。

(1) 世界の語学留学事情

私たちは日本国内の日本語教育事情しか知らないために、世界中に存在する数多くの日本語学習者のニーズを見誤っている可能性がある。日本語学習者のニーズを把握するため、もしくは想像するために、世界の語学留学事情を知るのには意味のあることではないか。

(2) 人材育成

前回までの研究大会において、「人材育成」が今後の日本語学校教育のキーワードであることを明らかにしてきた。今回はその内容に一步踏み込みたい。また、この視点において今後のキーワードとなるであろうデジタルスキルについても取り上げたい。

(3) 日本の留学生受け入れ政策

日本語学校に入学する学習者の多くは海外からの留学生であり、彼らの多くが日本の高等教育機関への進学を希望している。彼らの来日後のキャリア形成には、本人の努力のみならず国の留学生政策も大きく影響を及ぼす。そこで、日本の現在、そしてこれからの留学生政策を把握し、今後の日本語学校の学習者募集、および進路指導へのヒントに資する。

上記3つの視点は、一見まったく異なる文脈にあるかに見えるが、「日本語学校」というキーワードでつながっている。また、「(国境を越えた)人の移動」「教育」「システム」は、日本語学校教育の重要なキーワードでもある。したがって、この視点で現状と今後の方向性を知ることは、日本語学校の今後のあり方を考えるきっかけになると考える。

パネリスト 太田浩（一橋大学国際教育センター教授）

奥田純子（コミュニカ学院学院長）

藤本かおる（首都大学東京国際センター特任准教授）

星野達彦（一般社団法人海外留学協議会事務局長）

司会 黒崎誠（公益財団法人ラボ国際交流センターラボ日本語教育研修所）